

平成 23 年度 校内研究について

山形市立第十中学校 研究主任 2011/04

1. 研究主題と設定の理由、解釈

一人ひとりが主体的に学び合う授業の創造

～言語活動の充実を通して（3年次）～

最近の生徒は、こころが堅いと感じる。人や環境とうまく関わることができない生徒や、自らの意志で関わろうとしない生徒が増えてきたように感じる。要因の一つに実体験や経験といった活動が不足しているとも言われるが、その問題の根っこで、こころが解放されていないことを強く感じる。自分をさらけ出して素直に自己表現することが殊更苦手である。研究3年目の今年度も、その思いは変わらない。生徒に共通することとして、物事をよく考え、判断・整理し、考えをわかりやすく相手に伝える能力、すなわち言語力が不足している。この活動の流れが円滑に行えず、自分の考えや思いを適切に相手に伝えられないことから、人間関係でトラブルになることもある。そこで、学習指導に言語活動の充実を取り入れ、生徒の思考力や判断力、表現力等の育成をねらいとして、確かな学力や、生きる力を身につけさせたいと考え、本研究主題を設定した。

中央教育審議会答申及び、平成20年3月に告示された新学習指導要領でも、生徒の思考力や判断力、表現力等を育む観点から、言語活動を充実することが示されている。言語活動の充実や、学び合い活動の充実を各教科等で進めることで、自分の意見や考えを適切に伝え合う力や、自分を表現する能力を高め、主体的な学びの成立を目指したいと考えた。

研究推進委員について

校長、教頭、菅野（主幹教諭）、庄司（研究主任）、佐藤朋（学習指導部長・道徳主任）、金澤（情報教育担当主任）、小笠原・奥山・高橋啓（教科主任代表）

2. 研究の目標と重点

山形市教育委員会委嘱研究の内容

- ・委嘱期間 平成21年度から平成23年度・・・平成23年10月12日（公開研究発表）
- ・委嘱内容 「言語活動の充実による学習活動の工夫（学習指導）」
- ・研究の領域 学習指導（全教科）
- ・委嘱を受けての研究内容
 - ①各教科の研究テーマや研究仮説を基にした授業実践を積み上げる。
 - ②言語活動を意識して取り入れた年間指導計画や、単元指導計画を作成する。
 - ③本研究の土台となる、「共感的な人間関係」を構築するための手だてを工夫して実践する。
 - ④言語活動の充実を通して、各教科で目指す、思考力や判断力、表現力等の育成を図る。
 - ⑤学習のねらいに適した言語活動の充実を図り、学習課題・発問の吟味や、学習プリントの工夫、多様な学習形態等の授業の仕掛けを工夫する。
 - ⑥校内研究組織の充実を図り、教職員の研修の場を設け推進する。

研究の目標

- ・生徒の実態をよく理解し、生徒の問題点やその原因を探りながら、学級集団づくり（人間関係づくり）の指導法を共有化していく。
- ・グループ学習などの学習形態を取り入れながら、学び合い活動の充実を図ることで、学ぶ意欲を高め、一人ひとりに確かな学力を身につけさせる。
- ・一人ひとりが学級への帰属感を持ち、互いの存在を認め合える人間関係を育成することで、学ぶ意欲を向上させる。

＜言語活動の充実に関わって＞

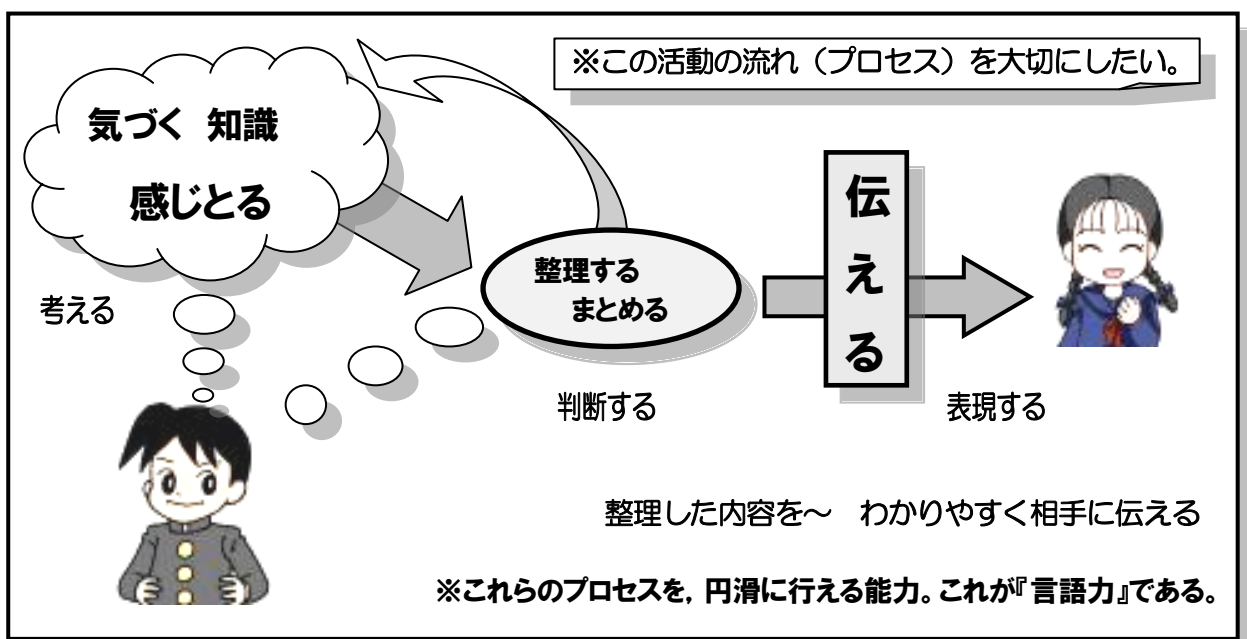
- ・自分の考えや情報を適切な言葉を使って書いたり話したりする力を育成する。
- ・自分の考えをもとに、書いたり話したりする機会を持つとともに、自分と異なる考えや新たな情報とふれあうことによって学びを深める指導を工夫する。

研究の重点

- ・学習の主体者である生徒が、主体的に参加している授業構造になっているか。
 - ①学びたいという欲求を自分から、または生徒同士で持たせる。
 - ②主体的に行動を起こさせ、やる気を引き出す手立てを工夫する。
- ・生涯学習の基盤としての学力観に立った授業構造になっているか。
 - ① 基礎・基本の習得も大切だが、それを活用して課題解決するための思考力や判断力、表現力等の育成と「探究」する意欲を育てることを中心とした学力観という視点を持つ。
→知識注入が最終目的の授業構造からの脱却が必要である。
- ・「言語活動」の研究も、最終的には生涯にわたる生きる力としての表現力・コミュニケーション力の育成という視点が重要である。

3. 本校がとらえる「言語力」とは

次のような能力が、本校の生徒には不足していると考えた。また、考えることや判断すること、表現することは、個々に独立した能力や活動でなく、一連の流れとして捉えて、育成していくことが重要である。



4. 目指す授業の姿と、言語活動の要素について

<言語活動の充実を通して、山形十中が目指す授業>
 ~生徒同士が、精一杯考え、表現し合う授業~

- 学びを通して、生徒の思考力や判断力、表現力等の高まりが見られる学習課題や、発問、指示になっている授業
- 他者に自分の考えを伝えようとする姿、よく聞いて理解しようとする姿が見られる授業
- 生徒のつぶやきや意見、説明、話し合いの内容などを教師がうまく調和して、まとめている授業

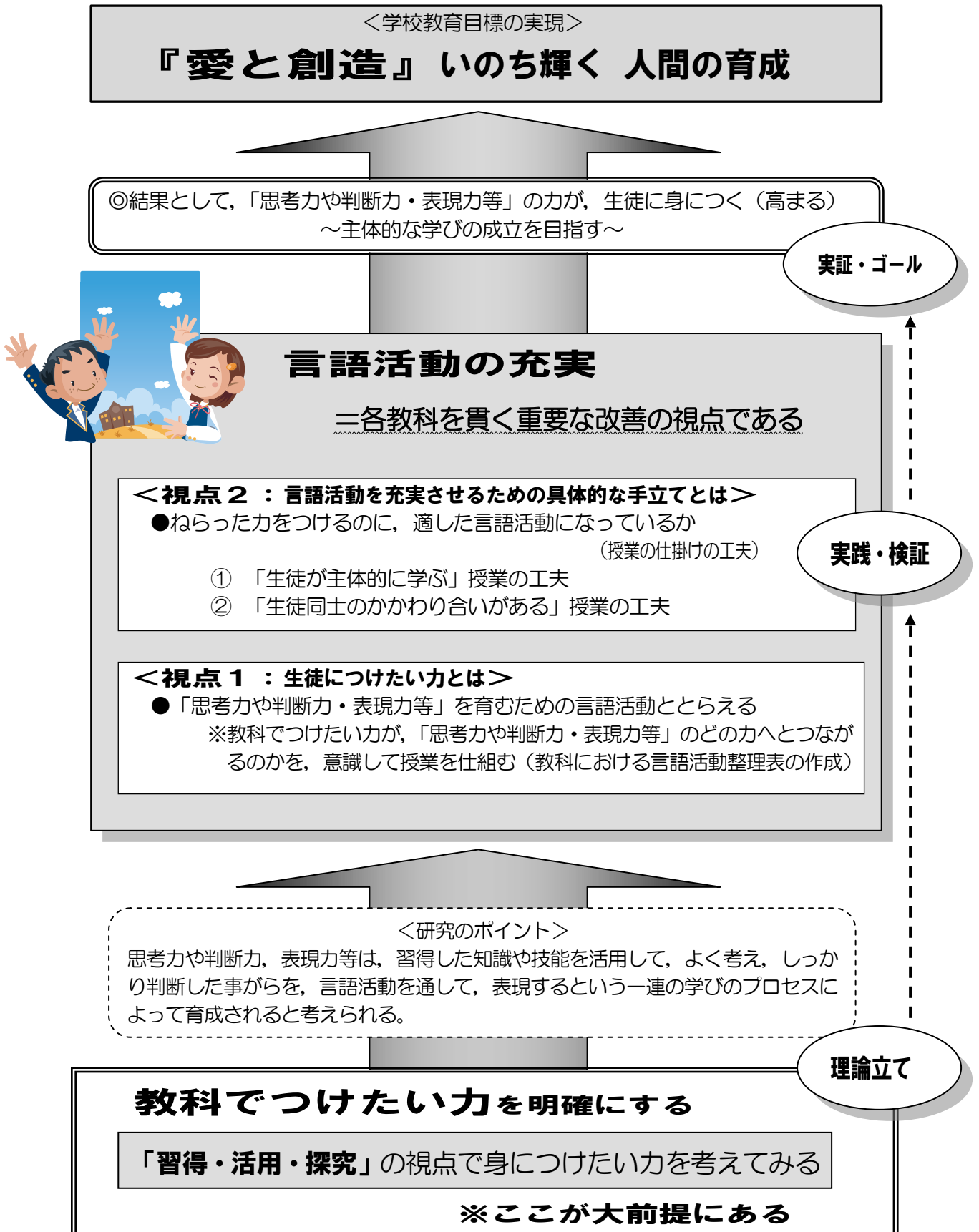
○言語活動に必要な要素をまとめてみると



○研究の土台となる「かかわりづくり」に重点を置く研究であることが重要である。

5. 研究の構想

- この研究を通して、私達の「授業改善」がねらいにある。



6. 校内研究の内容

- 十中の現状の把握・分析・共通認識
- 言語活動を取り入れた授業の工夫
- 共感的な人間関係の構築
 - ・学級経営の充実・・・学級経営に関する校内研修の実施
 - ・話し合い活動の充実（班会・学級会・学年生徒会・評議員会・生徒総会の活発化）
 - ・ボランティアの推進
 - ・個の頑張りを認める場面づくり（あたたかな人間関係づくり）
 - ・道徳教育の推進
- 言語活動の充実
 - ・朝活動での読書の推進（教師による読み聞かせの実施）
 - ・各教科等における言語活動の充実
 - それぞれの教科等で具体的にどのような言語活動に取り組むか
 - 「教科における言語活動整理表」の作成
 - 各教科等，研究テーマにそった授業実践
 - 年間指導計画での「言語活動」の位置づけ等
 - ・生徒発表の場の工夫
- 言語活動を通して、「生徒の主体的な学び」と「生徒同士のかかわり合い」を意識した授業展開の工夫
 - ・「まなび」を深めるための言語活動，「かかわり」を深めるための言語活動のあり方を探る
- 校内授業研究会の実施
 - ・年（3）回の全体授業研究会の実施（公開研を含む）・・・一人1回以上の授業研

- ◇第1回校内授業研究会・・・ 6月 6日（月）
- ◇第2回校内授業研究会・・・ 7月11日（月）
- ◆公開授業研究発表会・・・ 10月12日（水）
（国語，数学，社会，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語特別支援）で実施

※指導案検討会・・・9月13日（火） ※指導助言の先生方との打ち合わせ会

- 校内研究の推進，運営
 - ・プロジェクト会（校内研究組織）の推進
 - ・プロジェクト会からの発信（たより・情報）
 - ・教科部会の充実
 - ・研究推進委員会での調整
- 先進校の視察
 - ・埼玉大学教育学部附属中学校 教育研究協議会への参加（5月24，25日）
- 「校内研究だより」の発行
 - ・教員向け（情報の発信・共有）
- 学校ホームページの運営
 - ・学校ホームページの立ち上げ，運営

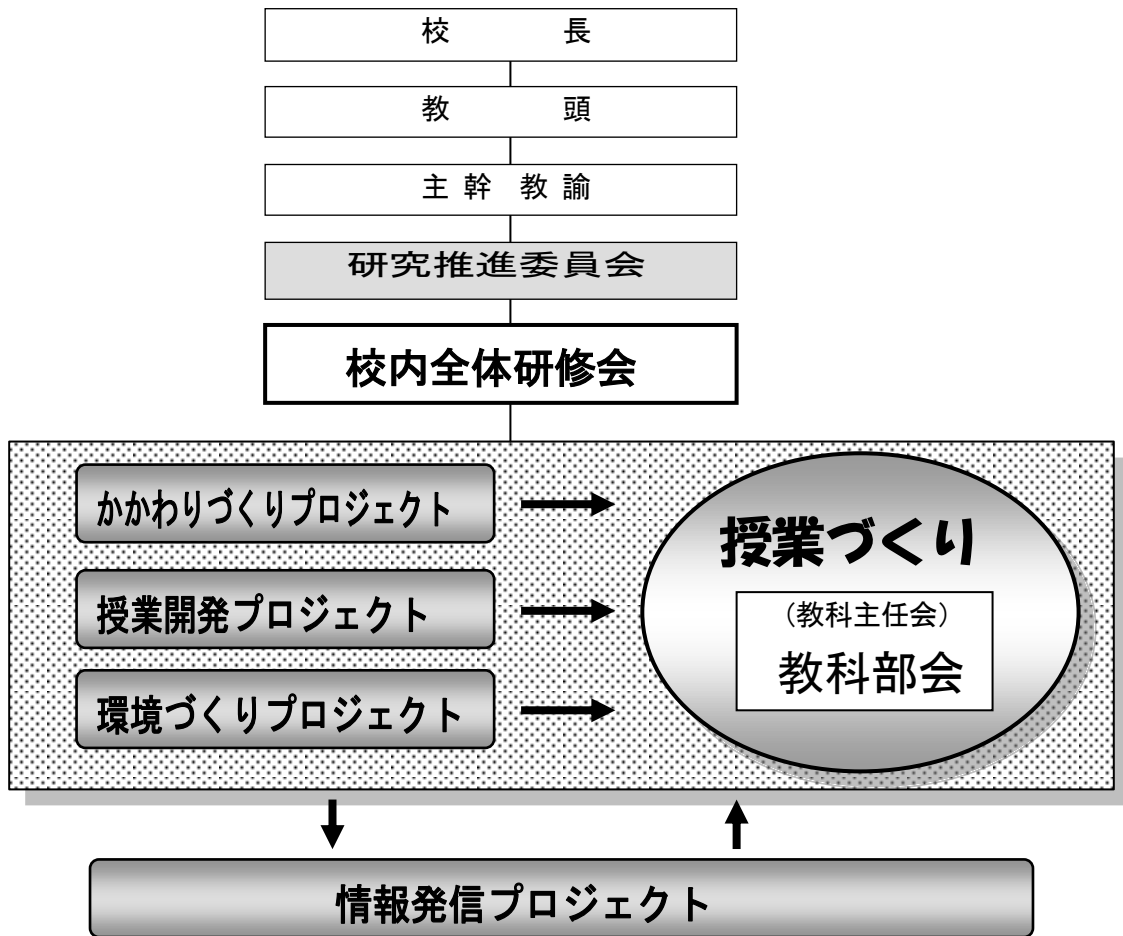
7. 校内研究の計画

◆平成 23 年度の公開研究発表会までのタイムスケジュール

	校内研究全体のうごき	動き	諸行事
4月	<p>○4/6 研究推進委員会①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の研究テーマ ・学習指導案の形式 ・研究のまとめ・研究紀要の形式 <p>○各教科の助言者・研究協力者（家庭科）に依頼・派遣申請を発送</p> <p>○4/7 全体研修会</p> <p>・研究内容の確認・平成22年度「研究紀要」をもとに説明</p> <p>○4/7 教科主任会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会授業者の選定について（お願い） <p>※選定にあたっての趣旨を説明</p> <p>※教科部会での検討課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動整理表の検討，見直し ・年間指導計画の作成 ・教科研究テーマ検討・実践のまとめと授業構想開始 <p>○4/20 研究推進委員会②</p> <p>○4/21 教科部会</p> <p>○4/22 職員会議 →プロジェクト会①</p>	<p>↑</p> <p>研究内容の確認</p> <p>↓</p>	<p>●4/8 始業式 入学式</p> <p>●4/12 職員会議</p> <p>●4/16 市中駅伝大会 犬川清掃</p> <p>●4/19 運営委員会</p> <p>●4/21 教科部会</p> <p>●4/22 職員会議</p> <p>●4/24 授業参観 PTA総会</p>
5月	<p>○各教科で，これまでの実践のまとめと，授業構想開始</p> <p>○『言語活動整理表』の吟味・検討</p> <p>※継続してさらに検討</p> <p>※3学年修学旅行・5/17(火) 18(水) 19(木)</p> <p>※2学年職場体験・5/18(水) 19(木) 20(金)</p>	<p>↑</p> <p>教科部会での授業検討</p> <p>↓</p>	<p>●5/2 生徒総会</p> <p>●5/9 1群半日研</p> <p>●5/17 2群半日研</p> <p>●5/23 教育実習開始①</p> <p>●5/27 中間テスト</p> <p>●家庭訪問 5/10, 11, 16, 23, 24</p>
6月	<p>○6月6日(月) 第1回校内授業研究会 →プロジェクト会②</p> <p>○中旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業研究会のまとめ提示、<u>研究紀要の形式検討</u> ・研究推進委員会 <p>○6月27日(月) 職員会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会者、研究協力者（家庭科）最終決定 ・研究のまとめ、研究紀要の形式提示 ・学習指導案の作成について ・公開研究発表会までの仕事と役割の分担について <p style="text-align: right;">研究紀要・ 指導案作成開始</p>		<p>●6/14 市中総体壮行式</p> <p>●6/18, 19 市中総体</p> <p>●6/24 教育を語る会</p> <p>●6/27 職員会議</p> <p>●6/30, 7/1 期末テスト</p>
7月	<p>○7月11日(木) 第2回校内授業研究会 プロジェクト会③</p> <p>○中旬に助言者，研究協力者に派遣申請</p> <p>○7月27日(水) 校内全体研修会</p> <p><全体会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の進捗状況確認・・・研究紀要，学習指導案 ・プロジェクト会④ 		<p>●7/4 学年部会</p> <p>●7/7 2学年校外学習</p> <p>●7/15 反省校務部会</p> <p>●7/16 吹奏楽地区大会</p> <p>●7/19 授業参観 保護者会</p>

	<p><教科部会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「研究紀要」原稿推敲 ・公開授業の内容確認 ・学習指導案の具体的な作成 <p>※授業内容について、相談が必要であれば、助言者の先生と連絡を取ってすすめる。</p> <p>○夏季休業中 ・学習指導案、研究紀要の作成</p>	<p>●7/21 終業式</p> <p>●7/22～25 県中総体</p> <p>●7/26 反省職員会議 校務部会</p> <p>●7/27 校内研修 教科部会</p> <p>●7/22～8/18 夏季休業</p>
8月	<p>○8月17日(水) 教科部会(指導案・研究紀要検討会) ・この日まで指導案、1次完成を</p> <p>※学習指導案を持ち寄って検討 ※研究紀要の検討</p> <p>○8月19日(金) 研究紀要の提出日 → 研究主任へ</p> <p>※研究推進委員会で検討(8月20日～) ※修正がある場合は、教科に依頼</p> <p>●8月23日(火) 学習指導案の提出日 → 研究主任へ</p> <p>※研究推進委員会で、指導案16本を検討(8月24日～) ※修正がある場合は、教科に依頼</p> <p>●8月26日(金) 「研究紀要」市教委へ原稿提出</p>	<p>指導案・紀要の作成</p> <p>●8/1 教育課程</p> <p>●8/2 2群一日研</p> <p>●8/2～3 東北造形研</p> <p>●8/3～5 全国理科研</p> <p>●8/17 指導案検討会</p> <p>●8/18 職員会議 学年部会</p> <p>●8/19 始業式</p> <p>●8/22 課題テスト</p>
9月	<p>○上旬 ・当日の参観希望調査実施</p> <p>○9月13日(火) 指導案検討会 ・指導助言の先生方を交えての会</p> <p>※全教科、特別支援で実施 ※必要に応じて、助言者の先生と連絡をとり、修正する</p> <p>●9月20日(火) 「学習指導案」最終提出日</p> <p>※指導案提出完了 ・最終点検 →印刷(自校)・製本(業者)へ(製本上がり10/)</p> <p>※言語活動整理表完成 → 印刷(業者)へ</p> <p>○9/ <u>助言者と最終打ち合わせ</u></p>	<p>授業内容を深める・当日の準備・環境整備</p> <p>●9/3 十中祭</p> <p>●9/6 教育実習開始②</p> <p>●9/7 学年部会</p> <p>●9/10 県中駅伝大会</p> <p>●9/14 1群一日研</p> <p>●9/21 新人大会壮行式</p> <p>●9/23,24 新人大会</p> <p>●9/28 校務部会</p> <p>●9/30 ワックスがけ</p>
10月	<p>10/ . . . 10日～2週間前に</p> <p>・指導案と「研究紀要」を、各中学校に発送</p> <p>10月12日(水) 公開研究発表会当日</p> <p>・「研究のまとめ」原稿に着手</p>	<p>●10/3 学年部会</p> <p>●10/5,6 中間テスト</p> <p>●10/5 運営委員会</p> <p>●10/15 県新人ブロック大会</p> <p>●10/17 職員会議</p> <p>●10/25 合唱コンクール</p> <p>●10/27 創立記念式 若宮会</p> <p>●10/29 東北中駅伝大会</p>

8. 研究の組織 <平成22年8月12日一部変更>



	プロジェクトの内容
●かかわりづくりプロジェクト ◎主任：佐藤朋 ○副主任：	★目的：言語活動を支える人間関係づくりを目的とする。 ★課題：開かれたところで、互いに語り合える関係を、どう築いていくか。 ★実践：朝の会や、終わりの会などで、継続して短時間で行えることで、カウンセリング、コーチング、セカンドステップなどの手法をあつめて、検討し、十中に取り入れられるもので構成してみる。
●授業開発プロジェクト ◎奥山 ○小笠原	★魅力ある授業（生徒が意欲的に楽しく活動でき、力がつく授業）づくりのためにどんな手立てを仕組んでいくか ・情報機器の導入、学習形態（グルーピング）の多様化、言語活動、単元計画と目標の明確化、ウォーミングアップや導入の工夫、モニタリング、ノートづくりなど、様々な視点からアイデアを出し合います。 ★実践と検証 ・授業で実践し、より効果的な手立てになるよう改善していく。
●環境づくりプロジェクト ◎高橋啓 ○新田	★生徒の生活習慣、学習習慣の改善に向けて ・学級指導の資料提示 ・委員会活動から、迫れること ★校内の掲示物企画と作成 ・生徒の活動がわかる掲示とは ・校舎内、掲示担当者による統一感のある魅力ある掲示物とは
●情報発信プロジェクト ◎金澤	★学校ホームページの作成（情報の発信） ★実践記録（写真を含む）の蓄積・管理

